

HISTORY OF TOPANGA CHAMPIONSHIP

TOPANGA CHAMPIONSHIP 1

2020年2月8日～3月15日開催



写真:4Gamer.net



第1期 TOPANGA CHAMPIONSHIP

furiousさん(@Furious_blog)のスクリーンショット
ときどさんは優勝した瞬間。頭を思いっきり抱えている。
かみしめている。一目じゃ勝敗がわからないくらい、
彼らは“それ”に打ち込んでいる。

TOPANGA CHAMPIONSHIP 2

2020年11月21日～12月20日開催

第2期 TOPANGA CHAMPIONSHIP

ふ～どさんと板ザンさんの談笑。結果的にこの2人は、この時に決勝で争う
形となり、板ザンさんが優勝した。肩を並べて同じ未来を見ることもある。
昨日今日の関係ではないのだから。



「2人でストリートファイターの世界に飛び込み、12年が経過。写真:大須晶
—2020年12月、第2期TOPANGAチャンピオンシップ」

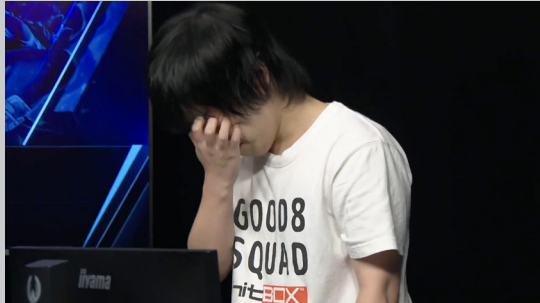
大須晶さん2020年12月21日のポストより

TOPANGA CHAMPIONSHIP 3

2021年5月29日～7月7日開催

第3期 TOPANGA CHAMPIONSHIP 決勝 ひぐちvsカワノ。

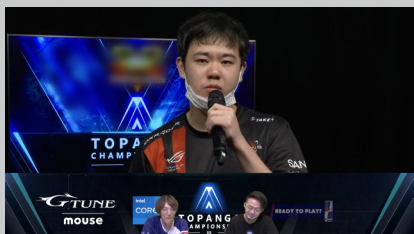
試合決着後、5時間46分40秒あたりから、倒れるひぐち、涙を流すカワノ。
すべてが終わり、すべてが彼らから噴き出した。



「トバンガチャンピオンシップ優勝しました。

嬉しくて泣いたのは初めてです。応援ありがとうございました。」

カワノ2021年7月8日のポストより



第3期 TOPANGA CHAMPIONSHIP 決勝 表彰式

同じ動画URLになるが、先ほどと同じく、6時間7分16秒あたりから、涙を流
すひぐち。ひぐちさんは、格ゲー界に入るきっかけ、そして自分をここまで
育ててくれた、ももちさんへの謝辞を述べた。その時の、ハメコ&マゴ両氏
のねぎらいの言葉が、本当に良かった。
「大丈夫。ひぐちなら、次がある。間違いない。あのプレイ内容は、今回、た
またまじゃない。それは保証する」
ここにいるのは、たまたまじゃない。次があるから、大丈夫。

TOPANGA CHAMPIONSHIP 4

2022年3月19日～6月19日開催



写真:eSports_creatures

第4期 TOPANGA CHAMPIONSHIP 最終日

試合後のウメハラさんをねぎらう水派さん。うろ覚えだが水派さんはウメ
ハラさんのスパーリングパートナー役。水派さんはコーディネーを使っていた
から。そして、この決勝リーグには、ももちさんと竹内ジョンさん、2人の
コーディネーがいた。しかし、ウメハラさんは、1日目と2目で苦戦して優勝の
道が途絶える。しかし腐らず3日目も闘い、ウメハラさんは、ジョンさんとぶ
げらさんに勝利。
試合を終えたウメハラさん、待っていた水派さんとガッチリと握手。
仲間がいれば、苦は分かち合い、喜びはその倍となる。
戦っているのは、選手だけじゃない。



第4期 TOPANGA CHAMPIONSHIP 最終日

ふ～どさんと、ときどさんが決着した瞬間。思えば、この2人の対決は、たし
かハメコさんか誰かが言っていたのを思い出した。究極的に言えば、「ゲー
ムは遊ぶもの」の、ラフな、ふ～どさんと「ゲームは極めるもの」の、スト
イックな、ときどさんの対決だった。
お互いの主義は違えど、分かり合うための手段は同じ。拳を交えること。
この時の、ふ～どさんの勝利について、誰かが言ってたのを覚えている。
「ふ～どはあの手この手で、ときどさんを攻略しようと策をめぐらせた。と
きどは、それに対しストイックに全力で叩き潰し続けた。そのバタフライエ
フェクトが、結果的に、ときどさんを必要以上に消耗させた。ふ～どさんの
粘りが、ときどさんの完璧な精度を追及するパフォーマンスを疲弊させて
最後は、ふ～どさんがタッチの差で追いぬいた。スコアは10ー9。
当時、とても考えさせられた。勝負の世界の難しさに。つねに本気だったか
らこそ、ときどさんは敗れた。糸を張り詰めすぎたふ～どさんは、キャラも
変えたり試行錯誤した結果、気分転換にもなっていた？

TOPANGA CHAMPIONSHIP 5

2024年6月8日～7月14日開催

第5期 TOPANGA CHAMPIONSHIP 最終日

こばやんさんの「試合は絶体絶命のピンチの状況で、リバーサルダッシュ瞬獄殺
を決めたカワノ選手がこばやん選手を追い詰めるも、こばやん選手が絞り出すよ
うにくり出したドライブインバクトがさく裂！ 8-6で勝利し、この時点でこばやん
選手の優勝が決定した」の写真

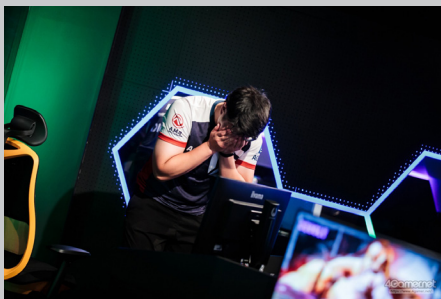


写真:4Gamer.net

感極まる若い彼の姿を見て、自分は昔を思い出した。

たまたまではあるが、自分はTOPANGAリーグが生まれた時から見てきている。こ
んな事を言うとおれだが、最初にイベント創設が発表された時のワクワク。間違い
なくその気持ちは本物だった。今はどうだろうか？飽きたというつもりはない。驚か
される試合はこれまでいくつもあった。ただ、すべての試合は100%全力で驚ける自
信はあるだろうか。SNSで熱狂している人達ほど、自分の心は摩耗していないと言
い切れるだろうか。しかし、こばやんさんの姿はどうだろう。なんてまっすぐなこと
か。TOPANGAチャンピオンシップがつむいだ歴史は、次世代が羨望するほどまで
に。それほどまでに、歴史が積み上げられてきたんだな、と自分はたそがれた。



写真:4Gamer.net

第5期 TOPANGA CHAMPIONSHIP 最終日

同じく4Gamerのフォトレポートの最後の写真を見た。

りゅうきち、ふ～ど、カワノ、ももち。おそらくイベント後の談笑。彼らは生まれも育ち
も年齢も立場もまったく同じではない。しかし唯一の共通点がある。試合が終わり
ばノーサイド。同じ世界にいる。なぜなら彼らは「格闘ゲーマー」だから。

WHAT'S? TOPANGA LEAGUE SINCE 2012

「TOPANGAリーグ」とは。

TOPANGA CHAMPIONSHIPの今の形になるまでの、つむがれてきた歴史の記憶たち。

「トーナメント制よりも、リーグ制ならば、
より多くの対戦カードが見られるのではないか」
「得失点差より、直接対決の結果を優先すれば、
最後の最後まで誰が優勝するかわからない？」
「これ以上の試合時間は危険だ。最大で10試合先取という区切りを。
7本先取のデウス制も導入する」
「二部のリーグを作れば、より多くの選手の受け皿になるのでは？」
「当日予選を作れば、より参加する事への間口が広がるのでは？」
「国内だけでなく、海外の選手にも目を向けようか」
これは何の話？それは、また、いずれ。